

くまを呼ぶ山里の診療所

大津町の国民健康保険

これまで健康保険のような被用者保険に入っている人のほかに、どの医療保険にも入っていない人は、国民健康保険に入らねばならなくなりました。

熊本県でも、ここ二、三年、この国民皆保険計画が進められてきましたが、市町村の協力で、現在では県下一〇五市町村のうち、九十カ市町村が国民健康保険制度を設けている状況です。そしてまだ



<診療所の全景>

実現されていない町村も今年度中には達成を期そうとしています。

大津町の国民健康保険は、三十二年四月から実施されていますが、町の人たちの利用も活潑で、昨年には直営の診療所もでき上り、地元の評判もなかなかのようです。

この町の北部にあたる地区、矢護川、平川は、いわゆる山間地帯で、昔から「医者はいない山里」であった。病院へ出かけるにも、六キロこえる山坂道を通わなければならないかつたし、交通の不便さもあつて、余程の大病でなければ旧大津町まで出かけることはなかつた。

例年、夏休みには、医大生の調査班がこの地方で活動を行っているが、その結果では、寄生虫患者や高血圧患者が意外業多いことなどがあげられていた。

野良藩のまゝで診療所へ

このような状況の中で、大津町の国民健康保険は実施された。そしてその事業の一環として、医者はいない地域を対象とした直営の診療所が、昨年の五月にでき上つた。

この診療所は、日曜、祭日を除き、朝九時から夕方五時までが診療時間。それでも急患の場合には時間外診療や、往診も行われている。利用者一日平均四、五十名。今までだと、風邪をこじらせて肺炎になる人もあつたが、現在では野良藩のまゝで早朝診療がうけられるので気分的にも相当楽になつたと地元の人たちは大喜びである。

(広報課)

郷土文化めぐり

(その1) 水俣市

★陣の坂公徳碑

陣の坂は市の南、旧街道筋にある。戦国時代に島津氏が肥後に侵入し、水俣城を包囲したことがある。その際島津氏の本陣がこの地に置かれたのでこの名を残すという。島津国史に「本陣を井川平に置く」とあるが、この井川平が陣の坂のこと。今日でもイゴビラの名が残っている。

昔からこの坂を越した著名人が多く、徳川時代には高山彦九郎が越えている。この時は徳富蘇峯先生の祖先である茂十郎氏が道案内をした。

高山彦九郎は土地の子供たちが道の石を取り除いているのを見て、



<陣の坂の碑>

「公徳心は都を離れ田舎に残る」と讃歎した。蘇峯先生は土地の良風美俗を残したいと思われてこの碑をたてられたのである。



▲亀嶺高原の頂上▼

陣の坂から市街を望めば新日窒工場や新設のクリンカー工場まで眺められ、南は爐畑が遠く続いて美しい。

★亀嶺高原

水俣の人達は昔から峠の東側(薩摩)を亀坂、西側(肥後)を石坂と呼んで区別していた。

頼山陽は薩摩からの帰りに大口を経由して小河内の関を通過し、この峠を越えてその夜は水俣の大庄屋深水家に泊り、ここでこの峠の詩をつくつた。

この詩の中で、亀坂のことを「亀嶺」と呼んでいるので、この名がそのまゝ、残つたもの。

(水俣市教育委員会)